

平成24年度 第2回入船地区学校統合懇談会議事要旨

1 開催日時 平成24年11月14日(水) 午前10時00分～午後12時00分

2 開催場所 浦安市文化会館中会議室

3 出席者

(委員)

小松学校統合アドバイザー、緒方会長、鞍山副会長、新田副会長、師岡委員、設楽委員
中村委員、坂上委員、米山委員

長野教育総務部長、大野教育総務部参事、角田教育総務部次長、山高教育総務部次長
(事務局)

佐藤学務課長、桂林学務課長補佐、鈴木管理主事、塩谷管理主事

4 議題

- (1) 説明会報告
- (2) アンケートについて
- (3) 準備委員会、懇談会、説明会の議事要旨について
- (4) 入船地区学校統合だよりの発行について
- (5) その他

5 資料

(当日配布)

- ・説明会概要及び配布資料
- ・アンケート内容
- ・第1回入船地区学校統合懇談会議事要旨

6 会議経過

(1) 説明会報告

*質疑応答、意見交換なし

(2) アンケートについて

委員：保護者用のアンケートを今週いただいたが、子ども用のアンケートがあるのは初めて知った。

1, 2年生にも新しい学校がこんな学校だったらいいということを書いてくださいとのアンケートだが、いきなり書かせてもいいのか。1, 2年生にすれば今行っている学校がすべてで、新しい学校と言われてもピンとこない。保護者が個々に統合について家庭でどんなふうには話しているかわからないが、話もないままにアンケートをとるのはいかがかと思う。

事務局：2つの小学校では、校長から先生方に学校統合の概要を説明し、子どもたちに説明した上でアンケートをとる。他の市を見ても、ながれは同じで、保護者には説明会を開催して説明し、保護者へのアンケートと同時に子どもたちのアンケートを進めていた。

委員：保護者はこういうアンケートをしていることを知らないと思う。7月に入北小で説明会があり、

9月にも合同で説明会があって、たくさんの保護者の方からいろいろな意見があった。その中でアンケートという話があって、教育長や市長がしますと言った。9月末にあったものは、もっと早くに出してしかるべきものが、11月になってからやって、締切が11月末で、そこから集めたら確実に年は越す。そうしたら統廃合は2年後になってしまう。

事務局：アンケートについては、合同説明会の時に市長も教育長も実施を約束した。新しい学校を魅力ある学校にするために意見をうかがっていくという趣旨であり、それを踏まえて今回出した。10月は就学説明会等もありその意見も参考にしたので、アンケートが遅くなってしまった。

委員：入船北小の中で、美浜北小に行きたい人と入船南小に行きたい人がいると思うが、そのアンケートはどうなるか。人数がわかっていると、今後の話がしやすいと思う。

事務局：本来学区なので、皆さん新しい小学校に入ってもらって、環境を整える面で、教員の数や施設面もあるので、来年度から調査をしたいと思っている。

委員：どういう形になるか。個別にお手紙を配布してどちらに行く予定かと学校選択のように早々に人数の把握をするのか。

事務局：方法については決めていない。来年、再来年とやっていかなければと思っている。

(3) 準備委員会、懇談会、説明会の議事要旨について

* 質疑応答、意見交換なし

(4) 入船地区学校統合だよりの発行について

* 質疑応答、意見交換なし

(5) その他

委員：説明会で市が約束したアンケートがこないの、私が作ったアンケートをした。これはあくまで全部私の責任の下で作った。(入船北小の)全学年の保護者対象に配った。学年ごとの数字は出ていないが、全体で72%の回収率になった。7月9日に開催された統合説明会に参加されましたかという件では、7月の説明会のアナウンスが来たのが1週間ぐらい前で、しかも花火大会の日であったため、都合がつかないという意見があった。私も行ったが、出席率が低かったと思う。7月の説明会でがっかりしたので、9月の説明会には参加しませんでしたという意見も何通かあった。行かなかったという人は、用事があったからというものもあるが、統合は決定というあきらめの話もあった。市長、教育長の説明に納得できたかについては、納得いかなかったという人がほぼ全体を占めた。入船北小での説明会の時には、説明だけになってしまったからだと思う。

市長や教育長、教育委員会の方の話は、数字の話が多く、何年後にこうなりますとか、他の学校ではこんなパーセントですとか、入北小の本来の姿を見ているのかということ、そうではないと思った。保護者が思っていることと教育委員会が進めていることが違うと思った。統合に賛成ですか反対ですかというのは、賛成が3%、反対が半分、ただ、条件によっては賛成という方も22%いる。これは今後の通学路の整備や新しい学校の対応の仕方によっては、賛成に回る可能性が高いと思う。今後の進め方ひとつだと思う。賛成意見、反対意見を読むと、確かに一クラスだといじめがあった時に逃げ場がないとか、子ども同士の間人間関係が心配だという保護者がいる。反対意見としては、訳がわからないうちに統合してしまう不安点や、せっかく小規模校で子どもが楽しく過ごしているのという意見があった。美浜北小に行くか、入船南小に行くかというアンケートでは、新設された学校に通うというのは全体の10%ぐらい、美浜北小などに通うというのは半分ぐらいいた。理

由はシンボルロードを通らせたくないという意見である。アンケートをまとめて思ったのは、説明会を見る限りでは保護者が納得するようなものではなかったが、条件次第では賛成という方もいる。勿論、賛成の方もいる。今後の進め方だと思う。どういう条件があれば、気持ちよく親子ともども新しい学校に行けるかを考えていくべきだと思う。12月1月にかけて、1, 2, 3年生を対象に、懇談会を私の方で開催しようと思っている。いろいろあった意見を年内に答えを出してほしい。例えば美北小には行ってよしとか、シンボルロードには、まず交通調査をし、何時から何時まではこの会社に依頼した交通員を何人立てます、下校時は何人立てますと、具体的に全部話を出してほしい。シンボルロードにフェンスがないところもあるので、事故がないようにフェンスを作るとか、保護者が心配だということを全部そろえて、ここまで教育委員会はしたので、もう一度検討いただけないかというくらい話を持っていかないと話が進まないと思う。皆さんの話をうかがって、なるべく早く統合に向けて話を進めてほしい。

委員：アンケートありがとうございます。大変なご苦勞をされて作られたと思う。新設される小学校に通うのは7人で、他の小学校へ通いたいと現段階で考えているのが35人。5割以上の方が美浜北小に通いたいと言っている。気持ちとしては行きたいところに行かせてやりたい。選択する自由があってもいいのではないかなと思う。美浜北小はもともとそんなにたくさん人数がいないので、入れる容量はあると思う。入船北小の方が行くことがなぜだめなのか。具体的な理由はあるか。

事務局：美浜北小に今の入船北小の1, 2, 3年が全部入るとなると、今の予測では難しい。キャパシティの問題がある。

委員：入船南小の方が難しいのでは。いっぱいではないか。

事務局：それは入船中のスペースがあるので入る。美浜北小の今の状況では全部は入れない。どのくらい希望が出てくるかは、これから調査をし、環境を整える。そういう意味で来年も再来年も調査をする必要があると思う。

委員：勿論、入船北から全部が美浜北に行くとは思わない。これから特に魅力ある学校をつくっていくとなるとそちらに行きたいという子どもや保護者もたくさんいると思う。

委員：(統合後にどの学校に通うかということについて) わからないという方も、クラスの友達が行ったら美浜北小に行くという流れの方が話を聞く限り多い。検討するではなく、美浜北小へ行っていいという返事が欲しい。できれば年内ぐらいに。

事務局：35人がどういう学年の割合かがわからないが、現状ではこの35人が入ることは大丈夫と思う。ただ、この後、来年、再来年入ってくる子どもたちもいる。美浜北小の人数の問題もあるので、オーケーですと今言えない。

委員：統合を話し合う時点で、美浜北小に行きたいという話が出るのは確実である。美浜北小へ通えるように、キャパが小さいのは何とかしてほしい。

委員：美浜北小も統合のうわさがある。美浜北小も昔から小規模校と言われていたので、たとえば5年後ぐらいに統合になると、入船北小から美浜南小に通うのも、とんでもないことになると思う。たとえば統合を5年後ぐらいと考えているのであれば、入船北小の皆さんは美浜北小に行こうとは思わないのではないかな。この先の市の計画として、どう考えているか。

事務局：美浜地区についても、統合をしていくという大きな方向性はある。ただ、児童数のことや美浜地区の両方の学校に別の施設が入っている関係があり、いつ進めるかということは、これから決めなければならない。今のところ、児童数は入船北小よりもう少し大きな規模になっているので、具体的な計画というのは進める状況ではないと現段階では考えている。

委員：美浜南小が向こうに行く可能性もあるか。

事務局：それも決めてあることではないので、ここでどちらにという話を出すと、一人歩きするので怖いと思う。

委員：そうですね。

アドバイザー：事務局が少し説明不足だと思う。学校というのは小学校であれば基本的に6年間のカリキュラムがあり、教育の考え方があって、1年生に入ったら6年間その学校の中で卒業するというトータルの計画で教育をしている。キャパ（シティ）の話をするとう教育的な話ではない。それぞれの小学校が入ってきた1年生に対して6年間あなた方をこういう風にして育てます、カリキュラムはこうですという話である。入船北小が統合も視野に入れ、来年1年生に入ってきた子どもたちに対して、6年間の途中で新しい学校に統合するが、そのことも含めて6年間私たちは責任を持って教育すると、入学式の日校長先生が約束をする話だと思う。途中で通学の条件が変わるとするのは大きな変更だと思うので、入るときにそのことも含めて、入船北小、入船南小、あるいは美浜北小に入ってきてくださいという話だと思う。キャパだけの議論をすると流動的な話なので、それよりは教育の基本的な学校の考え方を、来年入る方も再来年入る方も伺って、その教育方針の中に統合して新しい学校になるけど、そのことも含めて選んでくださいという風な説明をすべきだと思う。

委員：中学校なら3年間、小学校なら6年間を見通して、また連携を深めて義務教育9年間を見通してという言葉もある。私たち校長はそういうことを考えながら学校運営を行っている。

事務局：美浜北小への通学を認めてもらえるかという話は、浦安市では居住地を元にした通学区域を定めているので、その学校に行っていたのが原則となっている。また、この学校統合は、今まで入船地区では様々な連携を積み重ねてきたので、そのコミュニティを大切にす、入船地区という字を大切にす、あるいは中学校区としてみていこうということを根本にしている。学校統合をしていこうという立場で、美浜北小にもどうぞと申し上げるわけにはいかない。あくまでも学区外就学として、個別に事情を伺って受け入れる予定である。

委員：個別の事情というのは具体的にどういうことか。

事務局：学区外就学というのは、入船地区だけではなく全市的に行っている。たとえば、兄弟関係、身体的な関係、また最近多いのは人間関係である。友達同士の関係でこちらの学校を希望したい、そういう個別の事情を伺って検討し、決めている。1つ1つの事情を伺いながら受け入れるかどうかを決めている。

委員：美浜北幼稚園に通っている子どもたちは、入船北小の学区でも美浜北小に行けるのか。

事務局：1つ1つ事情を聞くことになる。

委員：美浜北幼稚園に通ってましたからという理由はあるのか。

事務局：先日の就学説明会で（美浜北）幼稚園の保護者の方からも質問を受けた。その時に私たちは優先的に入れてくれるのかという質問があったが、学校統合を進めているのに優先的にというわけにはいかないので、学区外就学として事情を伺いながら受け入れる予定ですと申し上げたら、了承いただいた。

委員：立場はよくわかるが、やっぱり入船南小に行くのか、でも美浜北小に行きたいとか、保護者の気持ちもある。美浜地区が統合するのかは、全く決まっていないうが、その辺も見据えて話をししていってもらわないうといけないと思う。

アドバイザー：公立学校というのは原則学区がある。それは地域の中で子どもたちを育てる、同じ地域の子もたちはできるだけ同じ学校へ行って、学校だけではなく地域で子どもを育てましようというこ。個人的には、公立学校にも学校選択制があってもいいのではないかと思っているが、浦

安市はそれをやらないし、皆さんがそれを望んでいない。地域に根差した小学校・中学校ということであれば、できるだけ同じブロックに住んでいる子がみんな同じ学校に行って、そのために自分たちの学校をこういう風にしていこうと、地域で知恵を出し合っていくことが大切である。私はあっちへ行きたい、私はこっちがいいと、自分が行くべき学校がいやだというのだったら、それは選択制を入れた地域から離れた義務教育になってしまう。浦安では、みなさんはそれでいいのかと私は思う。

私立に行く人は、最初からその学校の建学の精神に従うから地域とは離れてしまう。アメリカなどの公立学校は、みんなでお金を出し合ってその地域の学校を支えている。私たちにはそういう制度はないので、やや緩やかな、でも義務教育だから地域で子どもたちを育てていく。そのためには同じ学校へ行って、地域にあった教育活動なり学校行事なりをやらしてもらおうという形なので、今の何人かの保護者の考えは限りなく選択制に近づいていくことになる。地域から離れていく義務教育を浦安は今後やっていくという議論をしなければいけない。皆さんは、それでいいのかと私は思う。

私が教育委員をやっていた足立区では、学校選択制をやっている。弊害としては地域から子どもたちが離れてしまって、地域で何かをやらうとすると問題があるという批判も根強くある。その辺は議論するべきである。せめて義務教育、特に小学校なのだから、できるだけ隣の家の子とうちの子とは同じ学校に行くというようにするのか、あの小学校は魅力的だから、隣が何であろうと行くんだという街づくりをするのか、そこは考えどころである。まさにそのことを懇談会で浦安の教育、公立学校の教育はどうするかという議論を戦わせたほうがいいと思う。

委員：学区の件は、先般の市議会でも浦安全体を1つの学区にして学校を選択すべきだと主張した方もいた。ただ浦安の場合には、地域とのつながり、地域に根差した学校を設定している。先ほどの通学路の件は、具体的なデータは取っていないが、先日朝、通学時間帯に、我々担当と教育長とで入船の中央交差点の視察をした。

委員：それはいつ、何回ぐらいか。

委員：11月の上旬。今のところ1回。その際、同じ市の交通安全の担当からつけた指導員が、ダイエー側に1人ずつついて自転車の通行について指示をしていた。先般市長から話をした交通整理員を、どこらあたりに設置したら有効なのかと、第1回目だが現地を視察した。有効な交通整理員の配置については、どこに配置したら効率的で、かつ安全なのかということを引き続き検討していきたい。

通学路の決定については、毎年学校の校長、教頭、さらにPTAの方々に協力いただき、通学路の安全点検をしている。通学路の安全がどうかというときには通学路の変更をしたり、あるいは交通標識が見づらくなっている場合には交通担当に伝えたり、横断歩道の必要性、信号機の必要性がある場合には、県の公安委員会に要望を出すということを毎年やっている。

統合後の小学校の通学路については、今の時点での調査等は必要だと思うが、通学路はここがいいだろうというのは、PTAの方々、学校の先生方を交えて決定していく手続きがいいと考えている。

統合の計画は、平成23年から26年までの浦安市の第2次実施計画の中で、入船美浜地区学校統合推進事業として、美浜地区についても今後統合の手続きを進めていくということを、児童数の推移等を見ながら進めていきたい。しかし、まずは入船地区の統合を推進する。これは平成23年の市長の施政方針の中で入船美浜地区の小学校を対象に、地域のつながりを重視して小学校を統合するという事を発言している。

跡地の関係は、跡地の利用の具体策が見えないという意見をいただいたが、入船地区の学校統合

は、跡地利用を先に決めるというのではなく、子どもたちの良好な教育環境をこれからどのように考えていけばよいのかという点からスタートしたものである。跡地については全庁的にどのような活用方法があるかというのを、今のところ市長公室を中心に、都市計画ということになると思う。今現在、跡地はこのようにと伝えられないということは、理解をいただきたい。

委員：中学校が高洲中学校に分離するので人数が減るのだが、そこを含めて魅力的な学校をつくらないと、すごくさみしい新しい小・中学校になってしまう。それは、入船の人たちも望んでないのに、すごく魅力的な学校にしたい。校舎もそうだが意見をどういう風にしたら、新しい中学校に反映されるのか。例えば、進学率がすごく高い中学校にするため、外国人の先生がほかの学校よりもたくさんいて、継続的に英語教育に力を入れるために小学校をつけるというような具体的な計画案をつくった上で統合にもっていききたい。そういう意見はどの段階で予算に反映し、どの段階で言えば意見として採用されていくのか。皆さんに入船中学校はこういう風になります、こんな魅力的な学校ですということを、1年前2年前から宣伝しないと、みんな違う中学校に行ってしまう。入船中学校を魅力的な学校として残していききたい。素晴らしい中学校だと思うので、もっと魅力度を上げるための予算であったり宣伝であったりを、もっと入れていききたい。現時点では小学校の統合の話をしているが、中学校に子どもたちは上がるので、極力入船中学校にメリットを持っていききたいというのが私の願いである。統合の話と違うのかもしれないが、中学校の魅力というのを考える場というのを早々に立ち上げてほしい。そうすると小学校の魅力というのでも伝わっていくのではないかなと思う。

事務局：そういう意見をもらうのがこの懇談会の場でもある。そのために3校に集まってもらったし、そのためのアンケートである。意見をまとめていく中で、実際に何ができるかをこれから検討していく。アイディアはまずいただきたい。

委員：入船中学校の校舎の一部を使用すると明言しているが、5・6年生が中学校の校舎に移動した場合、中学校と時間が違う。休み時間も違ってくると思う。時間帯がずれていくことに関して、チャイムの関係もあるが、時間をそろえることは絶対に不可能だと思う。中学校は50分で小学校は45分授業なので、学校全体でチャイムを鳴らすことができなくなる。チャイムが鳴らせないと授業がきっかり終わらなかつたり、子どもたちが休み時間を確保できなかつたりすることもある。中学校の校舎を使うということはどうだろうという心配がある。

アドバイザー：全国に1000校を超す小中連携一貫をやっている学校がある。小学校45分、学校50分というが、これはその通りでなければいけないわけではない。小学校を50分にして一緒にやっているとところもあれば、中学校を45分にしてやっているとところもある。今いろんな学校が工夫し、いろんなケースがある。小学校を40分で作っている学校もある。教育委員会がアドバイスしながら、かなり柔軟にできるようになっている。全国の事例から言っても法律違反ではなく、先生たちがどういうカリキュラムを組んでいくかにかかっている。

委員：校舎の受け入れ準備は、予算の点があるので、具体的な内容は当該年度の3月に審議をすることになる。アドバイザーに言っていただいたような方法もあるし、なるべく中学生と小学生をエリア的に分離して、チャイムが違うというような運用であれば、チャイムの聞こえる範囲の改修工事を行うなど、いくつかやり方がある。今後学校側とも協議をしながら、一番適切な方法を予算の計上を含めて対応していく。

委員：私は入船北小の保護者に説明をしていかなければいけない立場である。来週中には私のほうから手紙を出そうと思っている。こういうことは決まりましたと今回報告していこうと思うが、「通学路に関しては11月上旬に教育長が視察をしました。交通整理員、通学路の決定は今後です。跡地

の利用も今後です。美浜北小に行けるか行けないか、これもキャパの問題等々もあり未定です。」ではまったく決定事項を報告できない。今後12月1月に、1～3年生の保護者を対象にお茶を飲みながら、統合について話をする会をしようと思っているが、これだけ何も決まっていなければ、話は進まない。結局統合には反対ですと、そこにまた戻らと思う。進めていくには、何月までにここはこうしますとか、もっと具体的にどンドン話を進めていかないと、誰も納得できない。

委員：委員から意見をいただいて、このあと入船地区学校統合準備委員会でそれをかけて、いろいろ決められるところは決めていく。予算面もあるので、委員のほうから貴重な意見をいただいているが、事務局のほうからここで決定というところは言えない部分もあると思う。

委員：決定もできないのは重々承知だが、意見ばかり言っていたら話は進まない。全部後追いになるような気がしてならない。アンケートも11月になって出てきた。全部があとあとで、それで決定ですとされているとしか思えない。もっといつまでに決めておきますとかを言ってほしいがいかか。

委員：予算の件では、決定事項があまりお伝えできないのがもどかしい。予算案をつくるのは教育委員会や市長部局だが、決定いただくのは市議会の決定ということになる。4月からの新年度予算ということになると、その前の3月議会で審議することとなる。それまでの期間で4月からの整理員を何人どこに委託するというのは、この場では申し上げられない。先般の説明会で市長から交通整理員を配置するという話をしたので、それについては予算を編成していくことは変わらないので、理解いただきたい。

また、通学路の件についても、これからいろいろと調整をするが、今決めて、はたして統合の時に理想的な通学路なのかどうかということもある。引き続き検討していく案件だと思う。決まっていないことについて、いろいろと意見等があるというが、通学路の点検、決定については、PTAの方々あるいは学校の先生方の協力をいただいて、実際にその現場を見て通学路を決めているのが現状である。通学路がこう決まったと示したいが、やはりわれわれが決めるよりは、協力をいただきながら決めていくというのが実際の流れになるので、その点を理解いただきたい。

委員：3月の市議会で予算を決めるという話だが、統合はもっと前から話があった。もっと前から予算を組んでおけばいいのではないかとこの考えがある。通学路は、ある程度こういうことを考えていますということ具体的に先に示していかないと、そこから保護者の意見があると思う。まずはこういうことを考えていますということを示すべきだと思う。美浜北小へ行くのか、入船南小へ行くのか保護者の選択材料の1つになると思う。安全性が確認できれば、もっと入船南小に行く子どももいるかもしれない。こういう風に決まりましたと言って、そこから意見をもらい、一本化していくべきだと思う。

委員：通学路については、先般、まだ1回だけだが、通学の時間帯に見せていただいた。やはり頭の中で考えるルートではなく、実際に見ると、こういうルートのほうが安全じゃないかということは公安委員会を含めて情報交換をして、一番効率のいい安全を最優先した通学路を設定していきたい。

委員：予算ということになると、統合の前年の予算が主になると思う。26年度にハード的な整備が必要であれば、その予算を計上することになる。

委員：小学校と中学校を結ぶ渡り廊下というのもその年度の予算計上になるか。

委員：統合の日までに学校整備をしておく必要がある部分については、26年度予算なるが、新しく学校を作ることになると、複数年にまたがることもある。連携の改修であれば、年度内に終了するのではないと思う。

事務局：来年度は設計の予算を計上したいと考えている。つなぐ施設とか委員が言ったような改修が

どのくらいできるのかというのは、これから詰めていかなければならない。どれくらいの規模の改修ができるかということも、考えながら設計の予算を取らなければならない。

委員：その設計に生かすための意見というのは、ここで言った意見が吸い上げられるのか。

事務局：もちろん踏まえてやっていくことになる。

委員：学校に戻って、たとえば今保護者達がどんな設備を望んでいるのかということ、早急に出さないと反映されないということか。

事務局：アンケートの魅力ある学校づくりの中にも出てくると思う。ここで出た意見やアンケートも踏まえて、ただ、今震災の影響でどれだけ施設の改修ができるかということは非常に大きな課題なので、必要性というものを考えていかなければならないと思う。

委員：校長という立場では、施設面に関しては保護者の意見を聞いたり役員会等で聞いたりもするが、学校教育の場面ではいろいろな施設面に対する専門的な知識を持っている方々の意見も聞いたり、ここだけではなくていろんなところで意見を聞いて教育委員会のほうに、要望という形で持っていくと思う。

委員：工事の関係の予算は、26年度の計画で考えているが、事前準備の予算は場合によっては25年度に計上するかもしれない。

委員：統合は決定していることなので、もっとソフト面での具体的なことを話し合っていないと、2年半後の統合に向けてかなり厳しい。校歌・校章などの公の部分だけでなく、統合後のPTA組織のことも入船北小と話し合っていないといけないと思う。入船南小だけでは判断できない。できればもう少し具体的な流れや決定事項を下していかないと、どのような組織にしていけるのか何も見えてこない。

保護者からも不安な意見が、ハード面よりもソフト面が上がっている。交通整理員を配置しますと市長が言っているので、安全面を考慮するのはもちろんだが、校歌・校章をどうするか、学校名をどうするかということ、もっと具体的に話し合っていないと、2年半後に統合にならないと思う。

次回懇談会が開かれるときも、アンケートの結果を受けて市の方針をしっかりと述べていただきたい。我々としては、その決定事項をもとにどのような道筋をつけていくかということが重要だと思う。

事務局：(説明会で配付した)資料の中に、今後検討していく課題をまとめたものがある。委員から指摘されたチャイムのことに関してもしっかり考えていないわけではなく原案はある。今後、小中学校の先生方にお集まりいただく部会を設置して、こんな案ですが学校としてはどうでしょうかと、1つ1つ積み重ねていかないといけないものである。学校の名称・校章・校歌すべて、1つ1つこの時期にこういう風に検討していこうという原案はある。この懇談会では、今の時点ではこのことについてこういう風に検討しておりますと報告をし、皆さんからこういうアイデアもあるということをお願いして、持ち帰って検討していくという繰り返しになっていくと思う。

委員：詳細な日程を公表しないと、意見を言えないと思う。要望を地域の方も含めて言っていきたいと思うので、詳細な日程、ここまでに決定しますということできれば公表してほしい。

事務局：スケジュールを公表するという要望があって統合だよりを作成したが、予算が絡むものもあり、小中学校との連携を図って決めていかなければならないこともある。こちらが決まらないと検討に入れられないということもある。ただ、秘密裏に検討して、こう決まりましたではなく、今こういう検討を始めました、あるいは今後こういう風に検討していきますと、必ず準備委員会の後で懇談会を開くので、そこで1つ1つご意見をいただいて参考にしていきたいと考えている。

委員：ソフト面のことが先ほど指摘があったが、示せる部分もあると思う。決して秘密裏に進めているわけではないので、意見をいただきながら進めていきたい。予算のところは遅いという部分もあったと思うが、示すことができる部分は示して、意見をいただきながら進めていきたい。

マスコミなどでは学校と教育委員会が離れているような印象があるが、ここにいる職員も教育委員会の職員も、半分以上は教員がやっている。定期的に校長、教頭として異動している。説明会での意見の中で、子どもたちのことを考えてくれているのか不安であるとの意見をいただいたが、学校籍の職員が多いので、当然子どもたちのことを第一に考えている。教育委員会としてもそれをバックアップしていく関係で、学校現場とは表裏一体だということを校長会議でも私どものほうから言っている。そういう形で推進していきたいと考えている。

実際に子どもたちの様子を見に来てほしいということについては、すべての学校ということになると、小学校18校、中学校8校あるが、毎年定期的に学校訪問ということで教育委員会あるいは葛南教育事務所が計画的に行っている。また、教育長は、運動会あるいは体育祭などはできるだけ顔を出すようにしている。機会があれば頻繁に顔を出したいというのが我々の考えである。

委員：教育方針やカリキュラム、教育課程や施設、通学路の安全等、様々な問題があると思う。小中連携という面でも、どうしていくのかという話し合いも今後随時学校間で行っていく必要があると思う。教育委員会も随時決まってきたものに関しては、定期的に報告等を願いたい。時間的なもの、予算的なもの、議会等も含めて、決定したものに関しては関連する小中学校及び幼稚園等を含めて連絡等を願いたい。

委員：保護者の不安というのはこれだけ大きいものだとすることを、市教委も理解いただきたい。これからの2年ちょっとの期間で準備してもらいたい。保護者の不安も解消されていくと思う。

小規模選択制の功罪もしっかり考えなければならないと思う。地域を大切にするといいながら小規模校の学校はどこからでも選択できるというのをやっているが、よかった面、悪かった面を反省していかないと、適正化をこれからも進めなければならないので、大切なことだと思う。

統合については、プロジェクトチームが必要だと思う。今は学務課がやっているが、学務課はこれに専念しているわけではなく、他にいろいろやりながらやっている。新設校を立ち上げるときにはプロジェクトで決めていたので、これだけたくさん懸案事項をやるには片手間ではできない。

保護者にとっては、それぞれの学校から行く学校に教員が誰もいなくなってしまうことはすごく不安になることだと思うので、2年間かけて教員の人事も考えてほしい。

委員：今日、会合に出席するに当たり、7月と9月に説明会があったので、私としては、今日は何らかの具体的な案がいただけるのだと思って期待して出席した。ただ、話を聞く限り、具体的な決定事項がない。来年の1月から2月に第3回の懇談会があり、内容的にはアンケートの結果報告等とかが掲げられているが、是非、3回目の懇談会時にはアンケートを踏まえて、具体的に教育委員会が統合に向け、何月までにここまではしますとか、今回ここまでは決定しましたというような前向きな意見がいただけるよう期待する。

事務局：第1回の懇談会の時、とにかく説明会を早くやったほうが良いという意見をいただき、まず入船北小での説明会、9月に合同説明会という手順を踏んできた。いただいた意見を生かしながらやってきた。この懇談会は、市内で初めての統合なので、円滑に進めるためにはどうすれば良いかという意見をいただいているつもりでいる。今日いただいた意見も整理し、どのようにしていったら良いか、具体的にできることは何かを考えながら着実に進めていきたい。

アドバイザー：教育委員会と、実際に教育に関わるそれぞれの小中学校と、お子さんや保護者の方と、3つについてそれぞれ整理しなければならない。基本的に公立学校を設置する責任と権限は教育委

員会にあり、最終的に決定するのは予算を含めて教育委員会がやる。ただ、浦安市教育委員会は、初めての統合をできるだけ学校や子ども達、特に保護者や子ども達の意見をできるだけ聞いて、いわゆる民意を受け止めていこうという話だと私は思う。でも、最終的には市民に対して責任を持ってやるのが教育委員会であり、法律上もそうなっているので、やってもらわないといけない。民意を大事にしながら、同時に一緒に学校をつくっていきましょうという流れがこの懇談会にあると思う。委員がやられたことや、保護者の立場からのいろいろな意見をまとめて発言されたことを教育委員会としてきちんと受け止める場として、この場があると思う。ただ、最終的な決定は、予算等はかなり後になる。通学路や校名をどうするかなど、できるだけ早く決めてほしいという意見が出たので、1回目も今日の2回目の2時間も決して無駄ではなかったと思う。私の知る限りでは、皆さんが統合しましょうと言っても、校名で揉めたり、校歌で揉めたり、せっかくなまごまごかけたのが壊れそうになったことがあった。実際にやろうとすると、揉める要素というのはたくさんある。まとまらない要素はできるだけ早く結論を出し、できるだけ早く中身を話し合った方が良いと思う。

今、皆さんが熱心に議論しているが、この議論を知らない人達が、校長先生も教員も保護者の方もいる可能性の方が心配である。PTAをやめたから知らないよというのではなく、委員には、是非27年までは統合に関わっていただきたい。あの時私は、こうやって要望した、こういう考え方があった、その時の保護者の意見はこうでしたということを絶えずその時の教育委員会や校長先生や職員に伝えていく必要がある。いろいろケースがあるが、できればどんな学校をつくりたいのか、どういう学校が良いのかを議論する。同時にこういう学校にしていこうと、私も地域も卒業生も関わっていく。私の基本的な考え方は、地域が地域の子どもの教育をやる。行政はむしろその通りに動いてもらう。ただ残念ながら浦安市は人事権がないので、県の教育委員会にいろいろな形で要望を出し、配慮をいただいた人事を来年度以降する努力をしてほしいと思う。先生方にも、保護者の方の熱い思いを受け止めて、魅力ある学校づくりをしてほしい。そういう先生方を教育委員会としてサポートしなければならないと思う。今日の議論はすごく幅広くあったので、あらためてこの学校だけでなく、浦安の公立学校はどうあるべきかを引き続き皆さんで議論したら良いと思う。委員会はあまり独断専行しない、しかし、責任を持って市民に考え方を説明し、対話がきちんとあるようにしたら良いと思う。